

Table of Dreams ～夢の食卓～

2011年4月9日(土) 22時30分～23時00分 の放送内容

記念すべき第1回は、日本文化と伝統を料理で再現する法善寺横丁『本湖月』の料理人穴見秀生さんの“夢の食卓”をお届けする。

番組内容

古くから「京都は“着だおれ”、大阪は“食いだおれ””と言われてきた食の都、大阪。この地で今も伝統的な日本料理にこだわり続ける料理人がいる。法善寺横丁に日本料理店『本湖月(ほんこげつ)』を営む料理人、穴見秀生さん。 ミシュランで二つ星を獲得した穴見さんは、中学卒業後、大阪の日本料理店で3年間修業した後、フランス・パリに渡る。パリで日本料理を作っている内に、自分が日本人であるということを自覚し、日本料理の魅力を再発見。帰国後、名店『吉兆』で日本料理の真の奥深さに触れ、のちに法善寺横丁の日本料理店『湖月』の料理長を務める。そして、45歳のときにこの店を買い取り、屋号を『本湖月』とし、新たなスタートを切った。日本文化と伝統的な日本料理にこだわり続ける穴見さんが、“玉手箱”と表現する料理がある。それはお椀。「煮物椀こそ日本料理の華。四季折々の椀の蓋を開けたとき、お客さんが驚いてくださる瞬間が最高の喜び」と語る穴見さん。 そんな穴見さんにとっての“夢の食卓”について話を聞く。そこには、子供の頃に味わったある料理と、それを作ってくれた人との思い出があった…。そして、その“夢の食卓”と穴見さんが目指すおもてなしの心に共通することとはいったいどのようなものなのだろうか。

Table of Dreams ～夢の食卓～

2011年4月16日(土) 22時30分～23時00分 の放送内容

今回は、93歳を過ぎた今も連載や書籍の出版を続ける吉沢久子さんの“夢の食卓”をお届けする。

番組内容

今回お届けする“夢の食卓”の主役は、1918年生まれ、御年93歳、家事評論家として今も活躍する吉沢久子さん。文化学院卒業後、評論家、古谷網武氏と結婚。30代半ばからテレビやラジオに登場し、料理番組の司会や自ら構成作家も手掛けるなど、今で言うフードコーディネーター・料理研究家の先駆けとして食に携わってきた。93歳を過ぎた今も、連載や書籍の出版を続け、「長寿の秘訣は毎日の食事にある」と、冷蔵庫の残り物で一工夫して作る簡単でおいしいご飯を楽しんだり、多くの友人たちとの“食べ友”など、食を通じた交流を持って毎日をいきいきと過ごしている。そんな吉沢さんに“夢の食卓”について話を聞く。吉沢さんは、「主人の家族や兄弟たちと開いていた“兄弟会”は今も忘れられない大切な思い出」と語る。さりげない会話の中に、家族の絆を感じるが多かったという。93歳になった現在、吉沢さんが楽しんでいる“夢の食卓”は、いったいどのようなものなのだろうか。